

新規事業採択時評価結果（令和2年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：奥村 康博

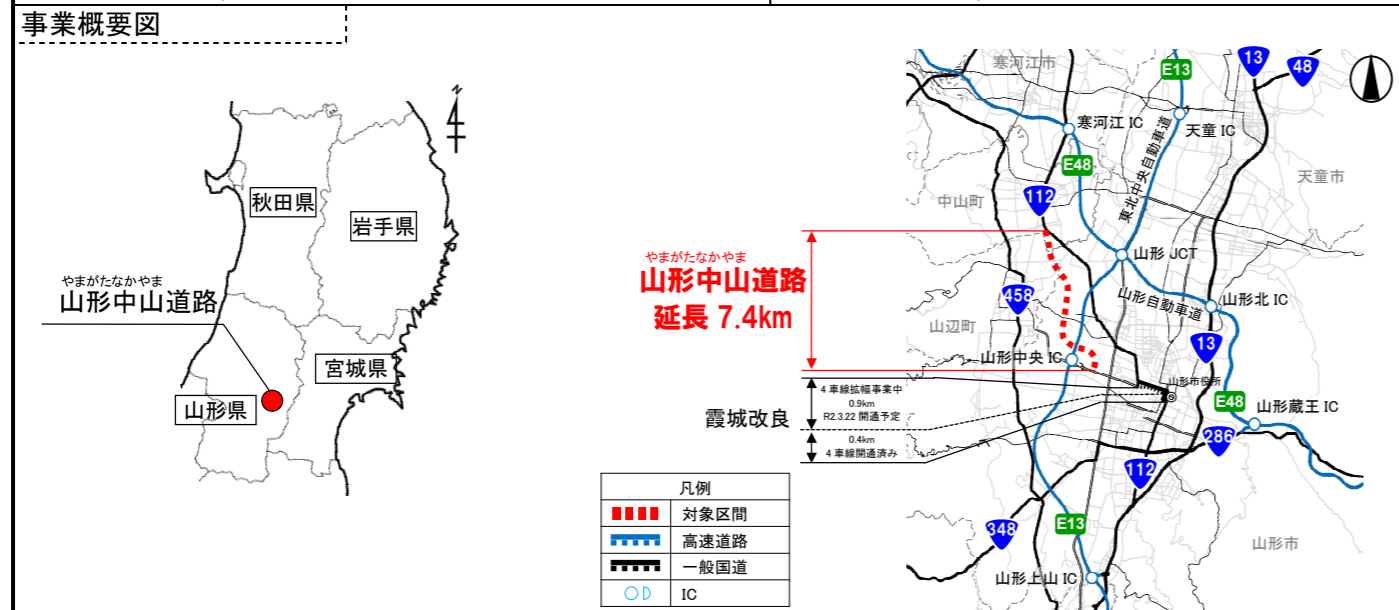
事業の概要

事業名	一般国道112号 やまがたなかやま 山形中山道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：山形県山形市西崎 至：山形県東村山郡中山町大字達磨寺	延長	7.4km		

事業概要
一般国道112号は、山形県山形市を起点に山形県内陸部を横断し山形県酒田市へ至る主要幹線道路である。一般国道112号山形中山道路は、山形市西部における渋滞解消や交通安全の確保を目的とした延長7.4kmの道路事業である。

事業の目的、必要性
当該事業の整備により地域間を結ぶ円滑な道路ネットワークを確保することで、交通集中に伴う恒常的な渋滞を解消し、地域連携を支援。さらに、交通転換を図ることで、渋滞や細街路、沿道からの出入りに起因した事故の減少により、安全で快適な走行性を確保するものである。

全体事業費：約250億円 計画交通量：約20,200台/日



関係する地方公共団体等の意見
【山形県知事】
予算化することについて同意します。
山形市周辺の国道112号は、山形市と共に生活圏を形成する近隣の寒河江市、山辺町、中山町を結び、通勤・通学・買い物等の日常生活を支えるとともに、圏域内の経済活動においても非常に重要な役割を担う道路であります。
事業が円滑かつ迅速に促進されるよう、沿線の市町と密に連携しできる限りの協力をさせていただきますので、「山形中山道路」の新規事業化と早期開通を是非ともよろしくお願ひします。

学識経験者等の第三者委員会の意見
・新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件
 ■費用対便益：便益が費用を上回っている。
 ■手続きの完了：計画段階評価手続き完了（H31.2.15）、都市計画変更手続き完了（R2.1.14）

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.6	総費用：201億円 （事業費：169億円 維持管理費：32億円）	総便益：313億円 （走行時間短縮便益：292億円 走行経費減少便益：13億円 交通事故減少便益：7.8億円）	基準年：令和元年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.3 (交通量 -10%)	B/C=1.9 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=1.4 (事業費変動 +10%)	B/C=1.7 (事業費変動 -10%)	
	事業期間変動	B/C=1.4 (事業期間変動+2年)	B/C=1.7 (事業期間変動-2年)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	◎	・交通混雑が緩和され、地域間を結ぶ円滑な道路ネットワークを確保 【主要渋滞箇所】 現況：5箇所 ⇒ 整備後：0箇所 【現国道112号の混雑度】 現況：1.48 ⇒ 整備後：0.78（約5割改善） 【現国道112号の旅行速度】 現況：約24.8km/h ⇒ 整備後：約30.1km/h（約2割改善）	
		事故対策	◎	・交通混雑が緩和され、安全で快適な走行性を確保 【事故危険区間】 現況：7箇所 ⇒ 整備後：0箇所 【死傷事故件数】 現況：186件/4年 ⇒ 整備後：121件/4年（65件/4年（約3割）減少）	
		歩行空間	○	・生活道路や通学路としても利用されている現道において、通過交通が山形中山道路へ転換することにより、沿線住民や通学児童の安全・安心を確保	
	社会全体への影響	住民生活	◎	・必要幅員の確保により、医療サービスの向上による地域連携を支援 【中山町役場から山形市立病院済生館への所要時間】 現況：32分 ⇒ 整備後：29分（約3分短縮）	
		地域経済	○	・幹線道路ネットワークの強化により、地域連携を支援	
		災害	-	・注目すべき影響はない	
環境		-	・注目すべき影響はない		
	地域社会	○	・日常生活圏内のネットワークを担う代替路の整備により、山形市と中山町等の周辺市町村との連携を深め、生活・産業を支援		
事業実施環境	○	・都市計画変更手続き完了（R2.1.14） ・整備に対する要望が強い			

採択の理由

費用便益比が1.6と便益が費用を上回っているとともに、計画段階評価及び都市計画変更手続きが完了し、事業採択の前提条件が確認できる。
また、地域連携を支える道路ネットワークの強化、交通安全の確保等、当該事業の整備の必要性・効果は高いと判断できる。
以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。